

あきらめないうこと、そして「ゆかいにやる」精神も大切

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

生涯学習開発財団は、今年で設立から34年を迎えます。これまで多彩な支援を通して企業や個人の学ぶ意欲を応援してきました。日本の社会も高齢化が進み、設立当初とはずいぶんと違ってきていますが、皆様には生涯学習を理解していただき、大いに実践者となって欲しいと願っています。

私は今年10月の誕生日で90歳となります。今の自分が好きです。年だからといって、年齢を隠そうとも思いません。長く健康でやってこられ、幸せです。

先日、国会議員であった父、松田竹千代の古いポスターを見つけたのですが、そこには「ゆかいにやっていますましよう」と書かれていました。私は今まで、人のため、社会のためにと働いてきましたが、「ゆかいにやる」、その精神も



クロコディロス2016日本公演にて。

一つのものとして大切に生きてきたことを思い出しました。

26歳のときロサンゼルスに住みたいと思ってロスに行き、テレビ局NBCで職を得ることができました。積極的に手紙を書き、NBCの親会社の会長に認めてもらったのです。アメリカでは、女だからとか、日本人だからといって、差別されたことはありません。そういうことを考えたこともないです。ナット・キング・コールを初めてテレビで取材したのは私です。コールも大変喜んでくれました。本当に毎日が楽しかったです。

日本に帰国後、2つの会社を興し、2つの財団の理事長をしてきました。65歳になったとき、自分にプレッシャーをかけるため、何か嫌いなことにチャレンジしようと思いましたが、それで何が嫌いなのか自分に問うてみたら、勉強だったのです。それから毎朝5時に起きて住宅の歴史を研究して、「日本近代住宅の社会史的研究」という論文を書き、71歳で工学博士号をいただきました。日本の伝統木造建築を棟梁から学び、実技と座学を身につける大工育成塾を開講したのは75歳のときでした。

人は年をとっているからとか、もう退職したからとか思っではダメです。年は気にしなくていい。私のこれからの目標は、伝統文化の復権と人材育成です。昼や湯たんぽ、七輪といった、昔の「暮らしの知恵」はすばらしい。そういった知恵を、いかに今の生活に生かすか。自分で考えて勉強することです。あきらめるのはやめましょうね。